

目 次

まえがき iii

第 I 部 形態論

第 1 章 英語の関係形容詞 —前置詞句の交替形としての分析—	長野 明子	2
第 2 章 英語の「名詞 + 名詞」形は句か語か	島村 礼子	21
第 3 章 Postsyntactic Compound の分析 —構文拡張的見方—	森田 順也	42
第 4 章 接頭辞「大」について	高橋 勝忠	61
第 5 章 日本語の句複合	西山 國雄	78

第6章	初期近代英語における名詞転換動詞	米倉 綽	96
-----	------------------	------	----

第7章	単語と接辞の境界	竝木 崇康	115
-----	----------	-------	-----

第II部 音声学・音韻論

第8章	クレオール語化に基づく中英語のリズム構造と音節構造	西原 哲雄	134
-----	---------------------------	-------	-----

第9章	連声は現代日本語に生きているか	ティモシー・J・バンス	147
-----	-----------------	-------------	-----

第10章	日本人の名前と性別 —「セイヤ」の男性性と「シホ」「ユーリ」「キヨ」の女性性—	六川 雅彦	160
------	--	-------	-----

第11章	「語呂の良さ」と「間」の関係について —俳句に関する一考察—	都田青子・石川友紀子	175
------	-----------------------------------	------------	-----

第12章	リズム定型における韻律要素の調整 —日本語・イタリア語の定型詩と歌謡の分析—	田中 真一	192
------	---	-------	-----

第13章	連濁は音韻理論の問題か	川原繁人・竹村亜希子	212
第14章	鳥取県倉吉方言における芸能人の名前等のアクセント —メディア経由の標準語アクセントの方言化—	桑本 裕二	236
第 III 部 音韻論・形態論などのインターフェイス			
第15章	複合語の生産性と語強勢の位置	時崎 久夫	256
第16章	語彙音韻論の限界と最適性理論によるアプローチ	三間 英樹	271
第17章	単純語短縮語形成に関する第3の解釈	橋本 大樹	294
	執筆者紹介		313